

旅立ちの言葉

桜の蕾も膨らみを増し、暖かな春の訪れを感じる季節となりました。

今日の良き日に、僕たちは旅立ちの日を迎えます。

三年前の四月。中学校という新しい舞台に対するワクワクと、環境の変化に伴う不安が入り混じった気持ちで入学式の日を迎えました。まだ十分に着こなせているとは言えない、真新しい制服姿に恥じらいを感じながらも、胸にいつぱいの期待を抱えて、この旭丘中学校の門をくぐりました。知らない名前がたくさん並ぶクラス発表。「どんな子だろう。」「友達になりたいな。」「そんな思いとは裏腹に緊張してなかなか話しかけられませんでした。初めは声をかけるきっかけを模索するのにはいつぱいでしたが、気が付けば話せるようになっていたし、一緒にいることが増えました。そうして新たな生活でも、仲間ができました。

一年生の秋。初めて自分たちだけで行った京都巡り。この校外学習で僕たちは失敗してしまったことがありました。そのとき、先生方が厳しく叱ってくださったからこそ「自分たちで直していこう。」そんな雰囲気が生まれました。そして、一致団結して、委員会の活動などに取り組んだことで、学年全体に少しずつ変化が見られました。

二年生になると初めて後輩という存在ができて、改めて責任を自覚しました。日々の学校生活や部活動、生徒会でも先輩に頼るのではな

く、自らも先輩として中心になり、旭丘中学校の原動力になれるよう取り組みました。先輩の引退後、自分たちだけの部活動では、しんどいときやうまくいかないこともありましたが、でも、励ましてくれる仲間がいてくれたからこそ一緒に頑張れたし、競い合えたのだと思います。

三年生になつていった沖縄への宿泊学習。ホームステイ先のおじい、おばあは僕たちをいろんな場所に連れて行き、美味しい沖縄料理を振舞ってくださいました。まるで本当の家族のような人の優しさに触れることができました。一方で、戦争の悲惨な現実が残る沖縄も同時に学びました。戦争についての事前学習で、僕はわかっているつもりでした。しかし、実際に体感したガマの暗さと狭さ。人々の苦しみやその中で必死に生きようとする姿を感じ取れました。平和学習をした僕たちにとって大切なことは、生きていることに感謝して大事に毎日を過ごすこと。学んだことを戦争を知らない人たちに伝えることだと強く思いました。

三年生の文化祭。全ての行事に「中学校生活最後の」という言葉がついてしまうことの寂しさを覚えつつ、だからこそ一生懸命に取り組みました。

合唱コンクール。どのクラスももちろん目標は金賞。それぞれに強い思いがあったから、仲間とぶつかり合うこともありました。でも、最後は協力し、一つの合唱をつくりあげました。

体育祭。印象的なのは、学年種目のアラカルトリレー。一年生るときと比べて圧倒的に増した迫力。クラスみんなでつなぐ襷にのった思いを感じながら走りました。また、競技だけでなく、応援でも三学年が一つになつて声を出し、楽しく盛り上げることができました。

そして、舞台・展示の部。学年全体が携わり、完成させた一つのステージ・作品。一人でも欠ければ、成しえなかったこと。仲間と協力し合い、完成させたときの達成感は一倍感大しかった。誰かに任せるのではなく、自分も一緒に頑張ったからこそ、感じられたものだと思います。

一、二年生の時は「行事が楽しい。」単純にそう感じていました。けれど、三年生では、結果がどうこうだけでなく、その過程も大切な思い出であると気付きました。本気で取り組んだからこそ悔し涙。学年が一つの糸でつながったように感じて流したうれし涙。一、二年生のとき懂れていた三年生の姿に少しは近づけたように感じます。

三年間を通して、人それぞれの価値観の違いを知り、自分の弱さや強さを「認める」大切さや難しさも学びました。自分の弱さは周りにいる誰かの強さが補ってくれる。誰かの弱さを自分の強さでカバーする。自分も少しは成長できたのかなと思います。でも、そこには、自分以外の大切な存在がたくさんありました。

まず、在校生のみなさん。及ばないところもたくさんあった僕たち

についてきてくれてありがとう。けれど、これからはみなさんでこの旭丘中学校をより素晴らしい学校へと発展させてください。みなさんならできます。仲間を大切にかけがえのない時間を楽しんでください。

次に、三年間お世話になった先生方。僕たちが失敗したら叱ってくれた先生。僕たちがうまくいったら一緒に喜んでくれた先生。悩んでいるときには自分のことのように親身になって話を聞いてくれた先生。そんな先生方のおかげで僕たちは僕たちらしく成長することができました。ありがとうございます。

そして、三年生のみんな。しんどいとき、くじけそうなとき手をさしのべてくれた友達。バカなことをして、一緒に大笑いした友達。「あいっには負けたくない。」そうやって競い合い、助け合った友達。仲間がいたから頑張れた。仲間がいたから楽しかった。この仲間だったから素の自分でいることができた。

「君と僕の大切な絆いつまでも切れないように ずっとずっと守り抜こう 心の中で紡いでいく 消えることはない いつまでも」

最強のスクラムでつくりあげたこの絆を決して忘れません。僕はこの学年のみんなが大好きです。本当にありがとう。

最後に、僕たちがどんな状態であっても、いつも味方でいてくれた家族。勉強に集中できる環境を整えてくれたり、進路という大きな決断のときにも「自分の進みたい道を選びなさい」と優しく背中を押して

くれたね。支えてくれてありがとう。そして、これからもよろしく願います。

今回、自分たちの力ではどうすることもできない事態によって、私たちの学校生活は少し短くなってしまった。正直、動揺もした。けれど、僕はみんなと過ごす一日一日の価値の大きさを改めて実感することができた。こんな事態になったからこそ、毎日を本当の意味で大切にできた。そう思います。こうして、みんなで卒業式ができることに心から幸せを感じるとともに、感謝したいと思います。

今日、この学校に別れを告げ、僕たちはそれぞれの道に歩み出します。この制服に袖を通すこともなくなります。けれど、旭丘中学校で共に過ごした三年間の思い出が消えることは決してありません。心の中にはいつも大好きなみんながいる。たとえ答えがなかったとしても、自分だけの正解を探しに、未来へいざ踏み出そう。よいい、はじめ。

令和二年三月十三日 卒業生代表

